

事業実績書

事業名		赤ちゃんを亡くされたご家族が安心して暮らしていけるまちづくり
場所		沼津市内
期間		2024 年 8 月 1 日 ～ 2025 年 3 月 27 日
	日程	実施項目・作業項目
事業 内 容		※ 実施内容、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、スケジュールも併せてわかりやすく記載してください。 イベントや研修会等の行事日程だけでなく、事業期間すべてにわたる実施内容を記入してください。 (打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会など)
	8/1	活動開始 ・ ホームページ・Instagram・公式 LINE の運用開始 ・ 近隣のピアサポートへごあいさつのご連絡を入れる（東部3か所）
	8/7	電話にてお産を取り扱う医療機関様に紹介カード配布のご協力依頼開始
	8/15	沼津市健康づくり課へごあいさつのご連絡を入れる
	8/17	お話し会 (ZOOM) 参加者 1 名
	8 月末	紹介カード・ポスターデータ作成
	9 月	市外産婦人科クリニックのグリーフケア担当助産師と電話・郵送でやりとり（～10 月）
	9/11	カメラマンとの打ち合わせ
	9/18	沼津市健康づくり課・沼津市子育てポータルサイトのグリーフケア情報にて、ピアサポートのホームページリンクを掲載して頂く https://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/kyoiku/kosodate/tetsuzuki/griefcare.htm
	9/21	お話し会 (ZOOM) 参加者 0 名
	10/2	医療機関との交渉が済み、必要枚数が分かったので印刷
	10/9	総合病院 3 院へ紹介カード・ポスター・注意事項の説明資料を郵送
	10/10	家族写真撮影事業の申し込み受付開始
	10/15	お話し会 (ZOOM) 参加者 0 名
	10/19	広報ぬまづ市民伝言板にてお話し会参加者の募集呼びかけ
	10/28	市外産婦人科クリニック 1 院へ紹介カード・ポスター・注意事項の説明資料を郵送
	11/5	沼津市健康づくり課へ紹介カード・ポスター・当事者への配布の依頼＆その他お願い
	11/8	病棟看護師より紹介カードの補充依頼あり郵送する（公式 LINE でのご連絡）
	11/16	お話し会 (ZOOM) 参加者 0 名
	11/20	健康づくり課の働きかけで市民課窓口にて紹介カードを配布して頂くこととなる
	11/28	沼津市のグリーフケア任意団体「たきびのこころ」「ひといろ」代表の石原様と名刺交換をさせていただく
	12/21	お話し会 (ZOOM) 参加者 0 名
	12/30	1 月 4 日まで Instagram にて啓発広告
	1/18	お話し会 (ZOOM) 参加者 0 名
	2/15	お話し会 (ZOOM) 参加者 0 名
	2/28	沼津市健康づくり課にて市内一部の産婦人科医院へ紹介カードを配布して頂く
	～3 月	公式 LINE での相談受付・家族写真撮影の申し込み受付・SNS 運営

事業効果	※ 事業計画書において設定した、成果指標に対する実績値を、具体的な数値を用いて記載してください。 お話し会：7 回 期間中申し込み人数 2 名、参加人数 1 名 Instagram 広告：4 万 9275 回閲覧 同一アカウントへの表示回数(リーチ)を含むと 7 万 1432 回 うちインスタアカウントへの訪問 29 回、保存数 3 件、 ピアサポートホームページへのリンククリック 19 回 LINE 相談：期間中登録人数 7 名 写真撮影：0 件
自己評価	※ 上記事業効果を踏まえて、事業の自己評価をしてください。 配布・掲示依頼のやりとりの部分で当初の想定以上に時間を要してしまったことや、主催者側の体調不良を理由に対面でのイベントの開催ができず非常に残念に思う。 また、アウトリーチ活動に力を入れた印象の割にはお話し会等への申し込み数が芳しくなかった。その原因としてはアウトリーチ開始時期が今年度の下半期へずれこんだことや、統計上の市内の当事者総人口が 1 年で 50 人に満たないことが挙げられる。 また、流産死産については長年表立って提起されてこなかった話題だが、広報ぬまづへの掲載や、県内全域を対象とした SNS 広告により、当事者ケアの必要性について少しでも考える機会をもってもらったことにつながったと思う。 昨今、深刻な少子化問題が叫ばれている中で子どもを望むカップルの存在は国の存続のための希望の光ともいえると思う。流産や死産等でお子さんを亡くされた後、なかには以降の妊娠・出産を望まなくなってしまう人たちもいる。計り知れないほど悲しくて衝撃的な出来事を経験してしまった際に当たり前に適切なケアがあったら、周囲の理解があれば心の傷がそれ以上深くならないようにほんの少しだけカバーできるかもしれない。 本当の意味で誰もが心から安心して妊娠出産ができる社会を目指すことは、巡り巡って少子化問題の解決への糸口のひとつでもあるのだと思う。
今後の活動予定	※ 補助金を利用予定・自己資金で活動・事業の見直し等、今後の展開について記載してください。 マンパワー不足は活動開始当初から顕著であったため今後は「お仲間募集」を呼び掛けながら持続的な活動の次続を目指していきたい。 今年度ご協力頂いた医療機関や保健センターにて紹介カードを配布してもらうことは、ケアが最も必要な時期である当事者になったばかりの方が、必要な情報につながる機会づくりとなった。当事者が社会から孤立してしまわぬよう今後も継続していくこととする。 新たに子育て世代の集う場(子育て支援センター等)にもポスター掲示等の依頼をしていきたい。 また、活動を通して繋がったご縁を活かして街に命の尊さやグリーフケアの必要性や社会問題としての提起をしていけたら嬉しく思う。